

港とくらす、港とあそぶ。

ミナトト



vol.01
autumn 2014

創刊号

特集

港町お寺めぐり……



TAKE FREE



M I N A T O T S U R U G A



古代より交通の要衝として栄えた
港町敦賀には、お寺や神社、史跡など
の歴史を伝える場所が沢山あります。自然と歴史が織りなす港町
敦賀のなごりをとどめるお寺をめぐり、莊厳な空気と歴史ロマンを
感じてみましょう。

ミナトト秋号

contents

- 特集 港町お寺めぐり
- Gourmet つるがのおやつ
- People 日本茶の心と技を伝える
- Pick up 敦賀がつまつた小さな画廊
- Event イベントガイド
- Map つるがまちなかマップ

港と暮らす、港と遊ぶ。

古くから日本海有数の港町として栄えた敦賀。江戸時代には北前船の寄港地として北海道で採れた昆布などの海産物を都に運ぶ拠点として発展し、その後はロシア・ヨーロッパへと渡る欧亜国際列車の発着場として重要な役割を果しました。戦争で大きな傷跡を残しましたが、港には石油貯蔵庫だった赤レンガ倉庫をはじめとした古い倉庫群など、昔の面影を残す建物が点在しています。敦賀の人にとって港は大切な想いが込められた場所なのです。



金前寺

金ヶ崎のいにしえの歴史とともににある寺院



敦賀市金ヶ崎町1-4 TEL.0770-22-1909



松尾芭蕉の詠んだ句碑



誓法山



敦賀市金ヶ崎町1-4 TEL.0770-22-1909

七三六年、四五代聖武天皇の勅により、泰澄大師により十一面觀音の座像を本尊として建立された高野山真言宗の寺院。八一年弘法大師が一時滞在されたとの伝えがあります。南北朝時代の金ヶ崎落城の一大決戦で本陣となり、新田義貞が足利尊氏の軍に打ち、皇子尊良親王及び新田義顕が観音堂にて自害。その際義貞が陣鐘を海に沈めたといわれます。一六八九年に松尾芭蕉が訪れ、この物語を聞き「月いつこ鐘は沈るうみのそこと」(詠み後)七六年に句碑「鐘塚」建立。天箇山の西の麓に佇み、春の金ヶ崎の華やかな桜はじめ、季節毎に彩りを変える周りの風景も一緒に味わいたい趣深いお寺です。二〇一五年、本尊復元一般公開予定。若狭三三ヶ所觀音靈場第二番札所・北陸三三ヶ所觀音靈場。



副住職
豊嶋弘苗さん



勝載山 永嚴寺

一四二三年永建寺(松島町)三世東渢宗

陽大和尚により開創された曹洞宗の寺院。幕末に武田耕雲斎率いる水戸烈士一行が敦賀の地で斬首刑にされた際には、少年達が永嚴寺に仏弟子として引き取られた事で広く知られています。

全高一六mの阿弥陀如来坐像は全国的にも希有な尊像。若狭三三ヶ所觀音靈場巡礼第一番札所。

銀物の
阿弥陀如來坐像は
必見



住職 池野文明さん 敦賀市金ヶ崎町15-21 TEL.0770-22-1535



みど
ころ

圓通山 永賞寺



みど
ころ



大谷吉継の慰靈の九重塔

敦賀市栄新町11-20 TEL.0770-22-1919

名将・大谷吉継の
菩提寺



住職 小川琢磨さん

一五〇三年、祐西師により開基された真宗大谷派の寺院。戦国時代の名将・大谷吉継の居城として知られている敦賀城の乾門跡に建てられた寺院で、境内には敦賀城の礎石が残っており、眞願寺門前には城跡碑もあります。

お寺の脇を流れる闇加川に、敦賀城外堀の名残を見ることができます。



益田山 真願寺

天長年間に北陸総鎮守「氣比神宮」の学問所とい、藤原武智麻呂公により真言宗「春鶯山氣比神宮寺」として創建。時の学僧覚円が聖人日像菩薩に四十六番の法論を挑むが悉く論破され日蓮宗へ改宗、寺号を「妙顯寺」と改称しました。

元亀元年には織田信長が朝倉氏攻めの折、本陣として、秀吉・家康等と共に宿当したと伝えられています。



最初具足山 妙顯寺



みど
ころ

大谷吉継
ゆかりの寺院



境内に残る敦賀城礎石



敦賀市結城町14-1 TEL.0770-22-1860

岡見山 紫雲院 来迎寺



一三八一年に栄尊により開基された時宗の寺院。
名将・大谷吉継ゆかりの寺で、敦賀城裏門から移築された中門や木製の加飾腰高障子(県指定文化財)が残存、また明治維新目前の幕末期に武田耕雲斎が率いる水戸天狗党の烈士が大量に処刑された場所としても有名。当時を感じさせる歴史的遺産が残っています。



みど
ころ

水戸烈士たちの最期を見届けた寺

日照山 本勝寺



みど
ころ

「水戸烈士幽居之寺」の石碑



水戸烈士
幽閉の寺



みど
ころ

本勝寺は、一四二六年日隆聖人(大本山本能寺開基)が、三日三晩の大法論の末、八〇年創建の真言宗寺院を法華宗に改宗した寺院。幕末期に水戸天狗党が本勝寺・本妙寺・長遠寺に分けられ、当寺には党首・武田耕雲斎を含む三八七名が一時、幽閉されました。境内には「水戸烈士幽居乃寺」の石碑が建立されています。また昭和の敦賀大空襲の戦災慰靈碑(供養塔)も建てられています。

敦賀市松島町2-5-32 TEL.0770-22-0654

県指定文化財の加飾腰高障子

住職 澤井敏文さん



氣比太鼓

氣比神宮に奉納された「氣比太鼓」にちなんで作られた最中。柔らかいこし餡はレーズンと混ぜ合わせてあり、あまつねい独特の口当たり。

御菓子処あさみ

敦賀市神楽町 2 丁目 6-21 TEL.0770-22-0289



蒸し羊羹

餡と小麦と砂糖だけを使用して、創業以来変わらない配合と製法で作り続ける懐かしい伝統の味。長時間蒸し上げることで余分な甘みが除かれさっぱりと食べやすい仕上がりに。

御菓子司 浅海分店

敦賀市神楽町2丁目6-8 TEL.0770-22-0790

かたつむり

ぐるぐるとうずまく様子から「かたつむり」と名付けられたロールケーキは、ふんわり卵の味がするコクのあるクリームと、しっかりと弾力のある生地が絶妙のバランス。

洋菓子工房ひらやま

敦賀市相生町 13-6 TEL.0770-22-6006



求肥昆布

最高級の北海道産天然昆布で作られた求肥は、口当たりが柔らかく弾力性があって、優しい甘みと天然昆布の香りが豊かな味わい。

越前敦賀銘菓処 紅屋

敦賀市相生町 6-11 TEL.0770-22-0361



いちご大福

きめ細かい羽二重餅の中に、ふわふわのスポンジと生クリームといちごを包んだ洋風いちご大福。いちごのショートケーキを大福にしたような感覚。

四季創菓 HAYASHI

敦賀市元町 7-23 TEL.0770-22-0956



長命水ようかん

氣比の長命水にあやかり、敦賀の良質な水と厳選した北海道産小豆、ザラメ糖を使用して、じっくりと丁寧に作られた心和むまろやかな舌触りとのどごしの良さが美味しい。

御菓子司 森本

敦賀市神楽町1丁目2-23 TEL.0770-22-0329



酒まんじゅう

創業当時より酒粕を使用せず自家仕込みの酒種を使う独自の製法で作り続ける酒まんじゅう。風味豊かなこし餡を麹が香る生地で包んだ敦賀伝統の味。

天清酒万寿店

敦賀市神楽町1丁目4-9 TEL.0770-22-0296



敦賀ふわっせ

コクのある味の濃い敦賀みかんのゼリーを敦賀産コシヒカリ100%の生地で包んだ地産地消率の高いお菓子。口の中で溶けるふわふわ生地と、ひんやり甘酸っぱいゼリーの組み合わせが絶妙。

KOBORI

敦賀市神楽町 1 丁目 2-34 TEL.0770-21-0141



敦賀の港周辺を散策すると、歴史の面影を残す建物や通りの近くに昔ながらの菓子屋さんや洋菓子店を見かけます。代々受け継がれる伝統の銘菓や新しく生まれた人気のお菓子を食べながら歩きも楽しいものです。



氣比神宮の眼前、神楽商店街にあるお茶の清香園は老舗のお茶の専門店。日本各地の産地から選ばれたお茶が店内に並び、古くからの客に長年支持されているお店です。この店を父親と一緒に切り盛りする中道尚子さんは、ご主人と揃って嶺南では一人だけの日本茶インストラクターの資格を9年前に取得、日本茶の正しい知識と美味しい淹れ方を多くの人に知つてもうおうと活動しています。

ひとくちにお茶といつてもいろいろな種類があり、健康維持に効果のあるものや気持ちをリラックスさせるものなど、気分や目的に合わせて葉を選ぶことで、より深くお茶の魅力を楽しめます。また、熱いお湯だと渋みが増したりと温度にも気を使うことが重要だそうです。

日々の仕事の合間に縫つて、婦人会や市民サークルなどに招かれてお茶の淹れ方の講習会を開いたり、児童クラブなどで子どもたちの仕事の合間を縫つて、婦人会や市



お茶の清香園
敦賀市神楽町1丁目1-8
TEL.0770-22-0753
営業時間 8:00~19:00
定休日 日曜日のみ不定休

も達にお茶の淹れ方の体験をさせたりしています。また、県内のいくつかの小学校では、5年生の家庭科の授業で教えることもあります。博物館通りの「パンかあさんぽこぼこ」の2階で、2ヶ月に1回程度「おちゃぱこ」と称して講習会も開いています。

「お茶は紀元前から今に受け継がれる大切な文化。自らの手で急須でお茶を注ぐことで、ほっとする癒しの時が生まれます。忙しいからこそ、お茶の香りに包まれて気分を転換することが大事。また、誰かに淹れてあげることで、人とのかかわり合いも生まれます」と語る中道さんに、お茶の文化の話を聞くのも楽しいですね。

ひと People

日本茶の清香園
日本茶インストラクター
中道 尚子

日本茶の正しい知識と
淹れ方を伝える。

舟溜り

Pick up



敦賀がつまつた小さな画廊。

敦賀港へと流れる旧笙の川河口付近は、小さな漁船やボートが停泊し、その風景から舟溜りと呼ばれています。この舟溜りから目と鼻の先の場所に自宅ガレージを利用した「画廊舟溜り」があります。

画廊のオーナー奥山登さんは、長年敦賀市内の中学校で美術の教員をされていた方で、約30年前にアメリカはコロンビア大学に研修留学した際一般家庭でおこなわれるガレージセールの様子を見て、ガレージを利用することを思いつきました。当時の奥山さんは、車の運転をすることはなく所有もしていなかったので、画廊のためだけにガレージを作ったようなものでした。

車1台がちょうど入るほどの小さなスペースには、奥山さんが描いた舟溜りなどの敦賀の風景や敦賀まつりなどの行事の絵が飾られています。地元の絵を描き始めたきっかけは、25年ほど前に県内画家によるシリーズ展「福井百景」に依頼され「新敦

賀十景」として舟溜りの絵を出品したこと。それ以来ずっと地元敦賀の絵を描き続けています。なかでも特に祭りを描くのが好きで、画廊に飾られている絵の中には敦賀のすべての祭りがひとつに描かれたものもあります。

奥山さんは、「文化はその土地でしか育たない」という言葉が好きで、敦賀の風景を描き続けることが誇りある敦賀の文化を伝えることに繋がると思っています。自家ガレージの「画廊舟溜り」には、今日もご近所の方が集まって敦賀の文化を育んでいます。



奥山登

昭和4年生まれ85歳
金沢美術工芸大学 油絵科卒
長年敦賀市内の中学校で美術教師として指導したのち、小中学校の校長として勤務。引退後は敦賀の風景を「画廊舟溜り」で描き続けています。

画廊舟溜り
敦賀市相生町25-4(不定休)



ミナトト vol.01 2014年11月発行

発行／港都つるが株式会社 www.tmo-tsuruga.com
編集・デザイン／東雲デザイン shinonomedesign.com

港都つるが株式会社

港都つるが株式会社は、福井県敦賀市の中心市街地の活性化を目的に、行政や市民、事業者が一体となって「まちづくり」をすすめるために、平成14年に設立された民間の会社です。敦賀の特色である海や港を生かした「港都つるが」を象徴するまちづくりを目指し、古い町並みを蘇らせた町家再生事業や、クラフトマーケットなどのイベント事業などを手がけています。フリーマガジン「ミナトト」は、中心市街地の情報発信ツールとして、まちなかの魅力を市内外に広くアピールすることを目的に発行しています。

〒914-0063敦賀市神楽町2丁目1番4号 敦賀商工会館3階 TEL.0770-20-0015

